

令和5年度 杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	43	学校名	仙台市立中山小学校	校長名	加藤 孝
------	----	-----	-----------	-----	------

1 取組のタイトル, テーマ
～身近なところから関心を高めるための取組～



2 取組の紹介

本校では環境問題をより身近に感じ、地球や環境に優しい学校づくりに意識を向けることができるように、以下のような活動を行いました。

(1) 環境委員会による取り組み

○自分たちの使う教室をきれいに保つ意識を持たせるために、ピカピカ点検を行いました。整理整頓やごみの分別がしっかりされているかを確認し、教室をきれいに保つことができている学級には賞状を送りました。

○古紙回収ボックスを作成し、自分たちで各教室に届け、資源をリサイクルすることを呼び掛けました。

○SDGsについて学習し、身近でできる取組を、少しでも多くの人に知ってもらうために、SDGsをテーマとしたかるた作りを行いました。



(2) 学年による取組

○6年生では、理科「地球に生きる」の単元において、人と環境の関わりを、SDGsと関連付けて学習しました。「海の豊かさを守ること」などを新聞にまとめ、廊下に掲示しました。

○4年生では松森清掃工場へ校外学習に行き、ごみ処理の仕方・資源の再利用を学びました。

一か所に集められたごみの量に驚き、自分たちでどのような取組をすればごみを減らすことができるか考えました。



3 取組の成果 (児童生徒の変容)

ピカピカ点検や古紙回収ボックスの取り組みは、児童も、「これはプラだからこっちだ。」「紙はあそこのボックスに入れるんだ。」と意識するきっかけになっています。

6年生の作成した新聞は、全学年が通る廊下に掲示されているため、中学年以上の児童は「SDGsってなんだろう?」と言いながら、17の目標はどんなものでどんな取組があるかということについて興味を持って読んでいました。

委員会のかかるた作りでは、作る過程を通して、児童が、「自分にどんなことができるのか」を考えるきっかけになりました。

環境保全だけでなく、他の問題にも目を向けられるよう、関心を高める取組をしていきたいと思えます。